

平成16年度 妙義町人権標語・作文コンクール最優秀作品

冬の「人権週間」で、本町小中学校児童生徒が取り組んだ「人権標語・作文」の作品から、人権教育推進協議会と小中人権教育主任会が選定した最優秀作文を随時掲載いたします。

人権標語の部

「あいさつは みんなをつなぐ キーワード」 高田小学校6年 佐藤友紀
 「思いやり 人と人との 心の会話」 妙義小学校6年 奥平琴音
 「思いやりの輪 広げてみんなを 包み込む」 妙義中学校3年 茂木孝之

人権作文の部

低学年の部
 「とべないホタル」 高田小学校2年 清水風香
 『「新ちゃんが泣いた」を見て』 妙義小学校3年 森田直樹

「とべないホタル」

高田小学校 2年 清水 風香

ホタルがいよいよとぶ日がきました。ホタルたちがいつせいにとびたちました。でも1びきりだけとべないホタルがいました。なかまのホタルがきて、「どうしたの。」「だいじょうぶ。」と声が聞こえてきました。「ほとべないんだ。」ととべないホタルはないで言いました。とてもかわいそうでした。それがわたしだったらどうしようと思いました。

あるよること、男の子と女の子が、とべないホタルをつかまえようとなりました。するとなかまのホタルがとんできて、みがわりになってくれました。やさしいホタルがいてうれしくなりました。とべないホタルはなみだでいっぱいになりました。つかまったホタルは足のふじゆうな女の子のところについて、おもいつきりおしりをひかせてとびました。

つかまったホタルがかえってきて、ほかのホタルはうれしくてたまりませんでした。そしてみんなだとべないホタルをつれて田んぼなどをみつけていました。とてもやさしいなかなまだなあと思いました。わたしは白雲りようにいきました。わたしのお父さんは「グループホームさいか」というところでかんごしをしています。白雲りようにいく前の日にお父さんに「どうすればなかくできるの。」ときいたら「いわれたことはしんせつにやってあげたり、

やってほしいことをちゃんと聞いてあげればへいさだよ。」とおそわりました。

わたしものうのしょうがいを持つている人に何回かあつたことがあります。それは言ったことをすぐにわすれてしまい、わたしの名前やおしえてもまたおなじことを聞いてくる人でした。それを見てわたしは、とべないホタルとおなじように「かわいそうなひとだなあ。」とおもっていました。でもとてもやさしい人で、わたしにおて玉をおしえてくれました。白雲りようの人たちもうたやゲームをとて楽しそうによるこんでくれたり、すごいでじなをみせてくれたりして、「とつても楽しそうだからばつていいるなあ。」とおもいました。

『「新ちゃんが泣いた」を見て』

妙義小学校 三年 森田 直樹

ぼくは新ちゃんが泣いたを見て、とても感動しました。

新ちゃんがはまなす学園から田上小にもどつてきて朝礼の時、新ちゃんをしようかいするため、先生が「土田君、ここまでこられたら来てください。」と言いました。そして、新ちゃんが返事をして立ち上がり、前に歩いて行つたとき、ぼくはとても苦しかったらうなと思えました。そして、とても勇気があるなと思えました。ぼくだったら、がんばつても

多分とても時間がかかるだろうなと思えます。それと、しょうご兄さんが言った言葉の「泣けば勇気が出て強くなれるのなら泣けばいいよ。」という言葉のおかげで強くやさしくなれたのかなと思います。ぼくもこの言葉をわすれないようにしたいです。

新ちゃんの田上小での生活がはじまりました。でも、みんなはやさしくするどころか、新ちゃんをいじめています。ぼくも悪口や人をいじめることがあるかもしれないけど、体が不自由な人をいじめることはしません。でも、みんなは新ちゃんをいじめるのが楽しいようにからかつていました。だからゆるせません。

そして、七夕運動会の日、新ちゃんは自分の意思で出ると決めました。すこいなと思えました。新ちゃんにバトンのさがわたされました。さいしょはがんばつて歩いていたけど、と中でつよし君につえをわたしたら、手首だけではつて体を引きずつて走りました。がんばつて走りきり、つよし君にバトンがわたりました。ぼくは、おそくてもさいごまで力をだしたので勝ち負けなんてどうでもいと思えました。

さいごに新ちゃんが、感想文でひょうしょうされて、新ちゃんとお父さんのお母さんが話をしてるとき、ぼくは、泣いてしまいました。その2人のすがたを見て、また、感動しました。